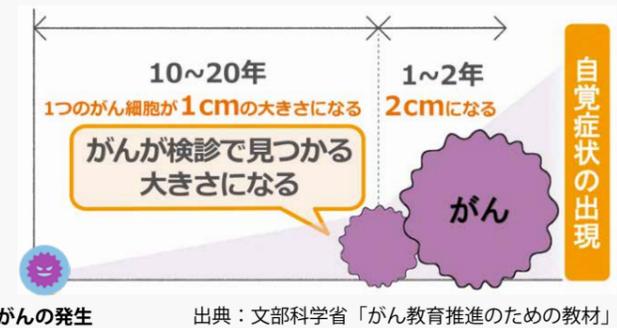


# 受けましょう がん 検診

健康づくり推進課(4月1日以降:健康長寿課)  
☎0869-24-8031



命を守るために、定期的に  
がん検診を受けることが大切です。

日本人の **2人に1人** は  
**がん** になるといわれています。

がんは日本人の死亡原因の第1位であり、死亡数は年々  
増え続けています。

瀬戸内市においても、がんは死亡原因の第1位であり、  
すべての人にとって身近な病気といえます。

がんは **早期発見** で  
**90%以上** が治ります。

- 早期のがんは治せる可能性が非常に高く、治療も軽く済むことが多いため、身体的負担・経済的負担が軽減されます。
- がん検診はがん以外の病気(がんになる前段階のポリープや潰瘍など)が見つかる場合もあり、がんになる前に治療ができます。

自覚症状が出たときには  
すでに進行している可能性が高い

発生したがん細胞は目立った症状がないまま増え続け、  
1cm程度の大きさになります。その後はわずか1~2年  
で2cm程度の大きさになり自覚症状が現れます。

## がん検診のデメリットも知っておこう

がん検診の判定・診察の結果が100%正しいというわけではありません。

「異常なし」という判定は、「あなたの身体にがんはありません」ということではありません。がんの場所や種類によっては早期発見が難しいことがあります。

結果的に不必要な治療や検査を受けてしまったり、検査によっては身体への負担がかかる場合があります。

検診で使う器材によって、胃や腸に傷を付けたり、放射線被ばくのリスクもあります。

また、「がん疑い」と診断され精密検診を受けた結果、がんではなかったと判定されることもあります。

## 4月からがん検診が始まります

市が実施するがん検診は、  
市が検診費用を助成するため、**お得**に受けられます！

職場などで検診を受ける機会のない人は市のがん検診を受け  
ましょう。検診の受け方や日程については「健康づくりガイド」  
をご確認ください。



健康づくりガイドは  
こちら



## 小説家 土師清二

郷土が生んだ小説家  
土師清二

土師清二(本名:赤松静太)は、明治26(1893)年9月14日、邑久郡国府村(現在の長船町)に父・赤松久五郎と母・津喜の一人息子として生まれました。19歳で上京し、26歳で大阪朝日新聞社に入社しました。

新聞社では週刊朝日の創刊に関わり、その中で土師清二名義としては第一作となる「水野十郎左衛門」を連載しました。  
筆名の「土師」は、母の生まれ故郷である国府村土師(現在の長船町土師)から、「清

二」は本名の静太から付けられました。

昭和2(1927)年から東京・大阪朝日新聞で「砂絵呪縛」を連載し一躍人気作家となりました。その後も次々と連載や発刊を繰り返し、多くの作品を出版しました。小唄、俳句、釣りなど趣味の多い人物としても知られています。

代表作「砂絵呪縛」

土師清二の代表作といえ  
ば、「砂絵呪縛」が挙げられ  
ます。

この作品は、徳川綱吉の治  
世を舞台に、將軍家の後継争  
いを軸に浪人や悪党、美女、  
砂絵師が入り乱れ、急展開で  
物語が進んでいきます。

作品が発表された昭和2年  
は、金融恐慌など暗い出来事  
が相次ぎ、人々の不安が渦巻  
いていた時期でした。そのよ  
うな時代背景の中で、大衆の  
心を惹きつけたのが、怪しげ  
で暗い雰囲気漂わせた「砂  
絵呪縛」でした。この作品は、  
多くの読者にとって日々の不

安から逃れる娯楽であり、心  
を揺さぶる魅力を持つ物語と  
して受け入れられました。

「砂絵呪縛」について、土  
師は「この作品は私にとって  
作風の上で大きな転機になっ  
た。書いた自分だけが面白く  
て読む人には面白くないよう  
な小説や、ある部分からは賞  
賛されるが多くの人は面白  
くないと言われることから  
逃れたいと思った。「砂絵呪  
縛」では、こうした点におい  
て成功しているのではないかと  
思っている」と述べていま  
す(大衆芸芸月報第11号、昭  
和3年3月1日発行)。

当時、大衆小説(エンタメ  
性の強い小説)というと、土  
師の書くような時代小説を指  
していました。大衆小説家と  
して、大衆の好む展開に沿っ  
て創作することは万人に出来  
ることではありません。  
土師にとって幸運だったのは、  
新聞社内に勤めていたか  
らこそ、連載小説が面白い

### 寄贈資料を展示しています

#### 企画展「郷土が生んだ小説家 土師清二」

この度、市は直筆の原稿を含む土師清二の資料の寄贈を受けました。資料の一部を市民図書館2階で展示しています。この機会にぜひご覧ください。

- 会期 5月24日(日)まで
- 場所 瀬戸内市民図書館2階「せとうち発見の道」(撮影:高相嘉男)



土師清二

どうかの反応が、つぶさに  
見てとれたという点でしょう。  
新聞小説の内容が面白い  
と、ゲラ刷りの段階で工場の  
職員が回し読みしたり、編集  
でゲラ刷りを奪い合ったりと  
いう光景が度々起こっていた  
そうです。